

平成27年9月9日
福祉保健部

平成26年人口動態統計(確定数)大分県の概況について

平成26年の人口動態統計については、平成26年6月5日の厚生労働省による概数の概況の公表を受け、6月10日に大分県分について取りまとめの上、公表している。

このたび、全国分の確定数の概況が、9月3日に厚生労働省から公表されたため、大分県分について取りまとめた。

確定数では、合計特殊出生率、新生児死亡、周産期死亡、婚姻、離婚の8項目において大分県の全国順位が変動している。これは、概数公表時には端数処理され同順位となっていたものが、確定数では端数処理せず順位付けしたこと等によるものである。

※ 人口動態統計とは…戸籍法等による、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚の5つの届出を基に市町村長が作成する人口動態調査票を取りまとめ、集計したもの。

人口動態総覧

		大 分 県			全 国			
		25年	26年	対前年	25年	26年	対前年	
1 出 生	実 数	9,605人	9,279人	△326人	1,029,816人	1,003,539人	△26,277人	
	率	8.2	8.0	△ 0.2	8.2	8.0	△ 0.2	
	順 位	21位	16位	5位 ↑				
2 合計特殊出生率	率	1.56	1.57	0.01	1.43	1.42	△ 0.01	
	順 位	13位	11位	2位 ↑				
3 死 亡	実 数	13,874人	14,065人	191人	1,268,436人	1,273,004人	4,568人	
	率	11.9	12.1	0.2	10.1	10.1	0.0	
	順 位	32位	32位	-				
4 (再掲) 乳児死亡	実 数	18人	21人	3人	2,185人	2,080人	△105人	
	率	1.9	2.3	0.4	2.1	2.1	0.0	
	順 位	13位	31位	18位 ↓				
5 (再掲) 新生児死亡	実 数	10人	10人	-	1,026人	952人	△74人	
	率	1.0	1.1	0.1	1.0	0.9	△ 0.1	
	順 位	27位	34位	7位 ↓				
6 自 然 増 減	実 数	△4,269人	△4,786人	△517人	△238,620人	△269,465人	△30,845人	
	率	△ 3.6	△ 4.1	△ 0.5	△ 1.9	△ 2.1	△ 0.2	
	順 位	28位	28位	-				
7 死 産	実 数	274胎	257胎	△17胎	24,102胎	23,524胎	△578胎	
	率	27.7	27.0	△ 0.7	22.9	22.9	0.0	
	順 位	42位	40位	2位 ↑				
	自然死産	実 数	106胎	93胎	△13胎	10,938胎	10,905胎	△33胎
		率	10.7	9.8	△ 0.9	10.4	10.6	0.2
	人工死産	実 数	168胎	164胎	△4胎	13,164胎	12,169胎	△995胎
率		17.0	17.2	0.2	12.5	12.3	△ 0.2	
8 周 産 期 死 亡	実 数	42	31	△ 11	3,862	3,750	△ 112	
	率	4.4	3.3	△ 1.1	3.7	3.7	0.0	
	順 位	37位	14位	23位 ↑				
	妊娠満22週以後の死産	実 数	35胎	22胎	△13胎	3,110胎	3,039胎	△71胎
		率	3.6	2.4	△ 1.2	3.0	3.0	0.0
		順 位	40位	8位	32位 ↑			
	早期新生児死亡	実 数	7人	9人	2人	752人	711人	△41人
		率	0.7	1.0	0.2	0.7	0.7	△ 0.0
9 婚 姻	実 数	5,724組	5,391組	△333組	660,613組	643,749組	△16,864組	
	率	4.9	4.6	△ 0.3	5.3	5.1	△ 0.2	
	順 位	22位	29位	7位 ↓				
10 離 婚	実 数	2,179組	2,004組	△175組	231,383組	222,107組	△9,276組	
	率	1.86	1.72	△ 0.14	1.84	1.77	△ 0.07	
	順 位	38位	25位	13位 ↑				
平均発生間隔 (平成26)	出生…56分39秒に1人			出生…31秒に1人				
	死亡…37分22秒に1人			死亡…25秒に1人				
	婚姻…1時間37分30秒に1組			婚姻…49秒に1組				
	離婚…4時間22分17秒に1組			離婚…2分22秒に1組				

注1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産(出生+死産)千対。周産期死亡率及び妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対。

注2) 全国順位について、出生・合計特殊出生率・自然増加・婚姻は高率順、他は低率順としている。

1 出生

(1) 出生数は9,279人で、前年より326人減少、過去最少となった。

出生率（人口千対）は8.0で、前年の8.2を下回った。

(2) 出生数を母の年齢別にみると、40歳代で14人増加し、20歳代で227人、30歳代で124人の減少となっている。

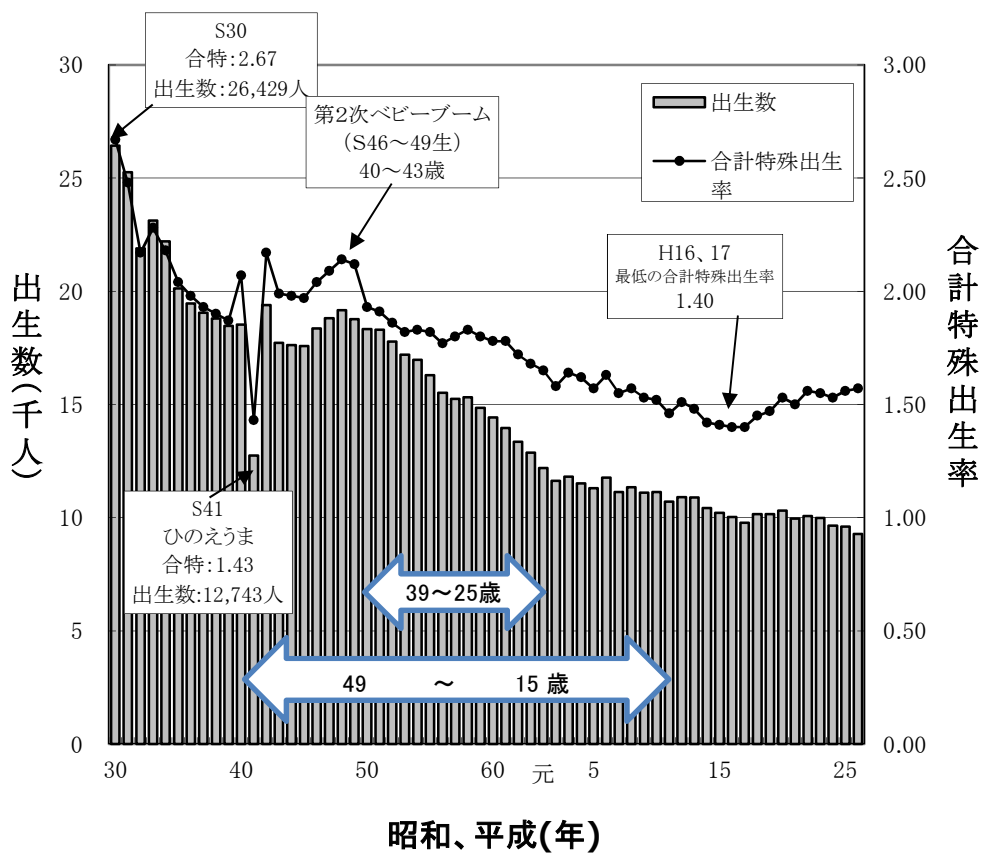
年齢階級 (歳)	出生数 26年	出生数 25年	増減
15～19	125	114	11
20～24	947	1,007	△60
25～29	2,741	2,908	△167
30～34	3,214	3,276	△62
35～39	1,893	1,955	△62
40～44	350	342	8
45～49	9	3	6
合計	9,279	9,605	△326

2 合計特殊出生率

合計特殊出生率は1.57で、前年の1.56を上回り、2年連続で上昇し、また7年連続で1.5台を維持した。

なお、全国の合計特殊出生率は1.42で、前年の1.43を下回った。

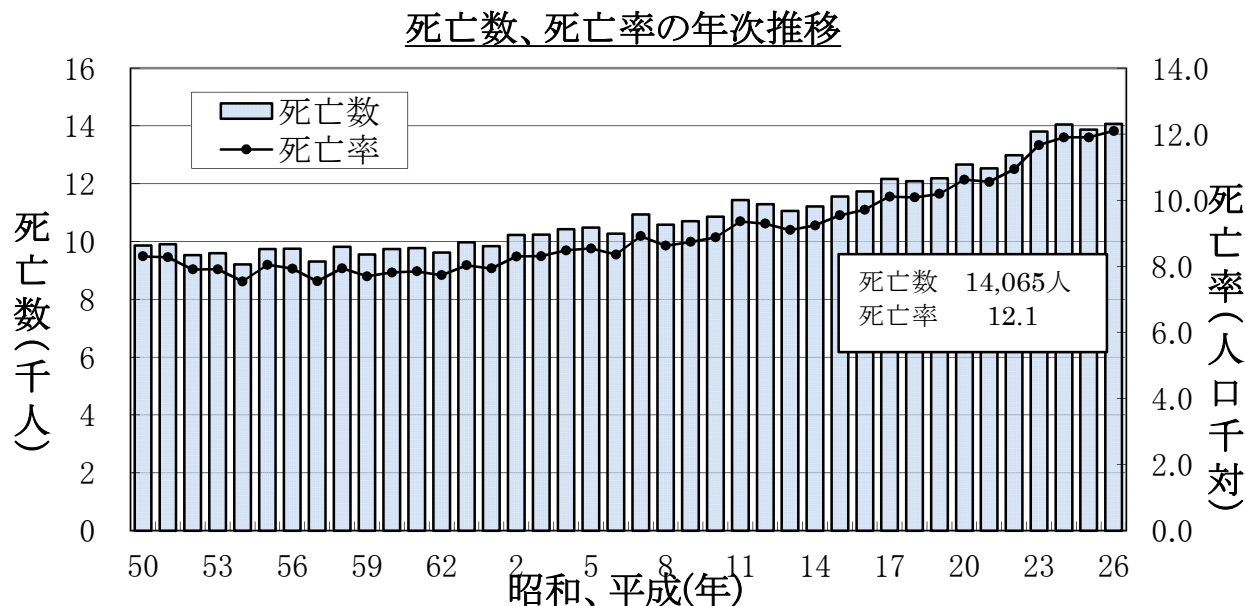
出生数及び合計特殊出生率の年次推移



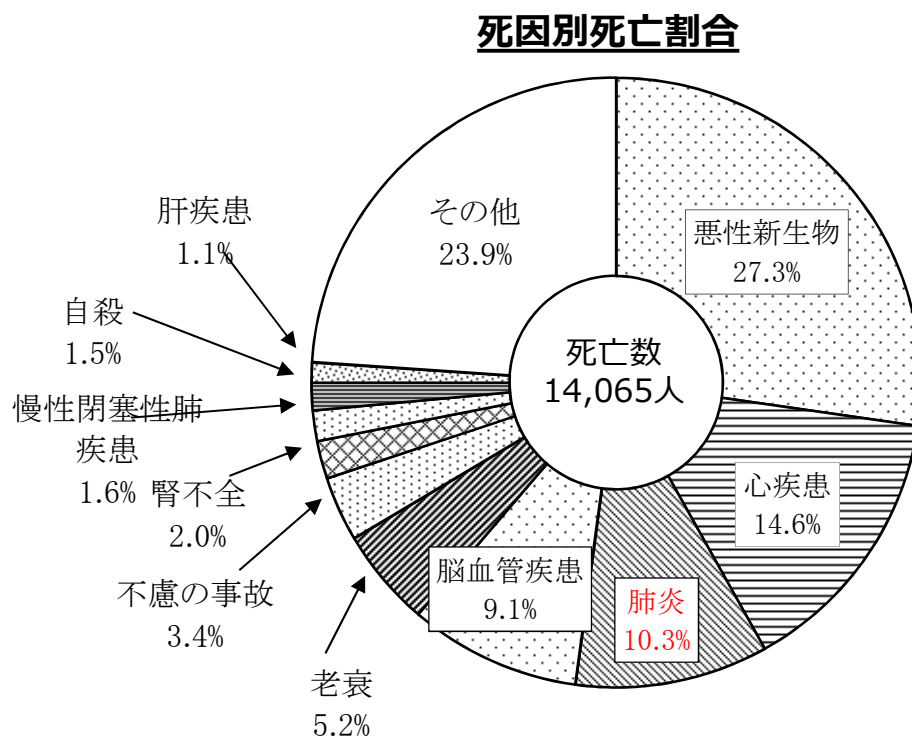
3 死亡

(1) 死亡数は14,065人で、前年より191人増加した。

死亡率（人口千対）は12.1で、前年11.9を上回った。年次推移を見ると、昭和50年代後半以降、上昇傾向にある。



(2) 死因順位についてみると、第1位は悪性新生物27.3%、第2位は心疾患14.6%、第3位は肺炎10.3%、第4位は脳血管疾患9.1%である。



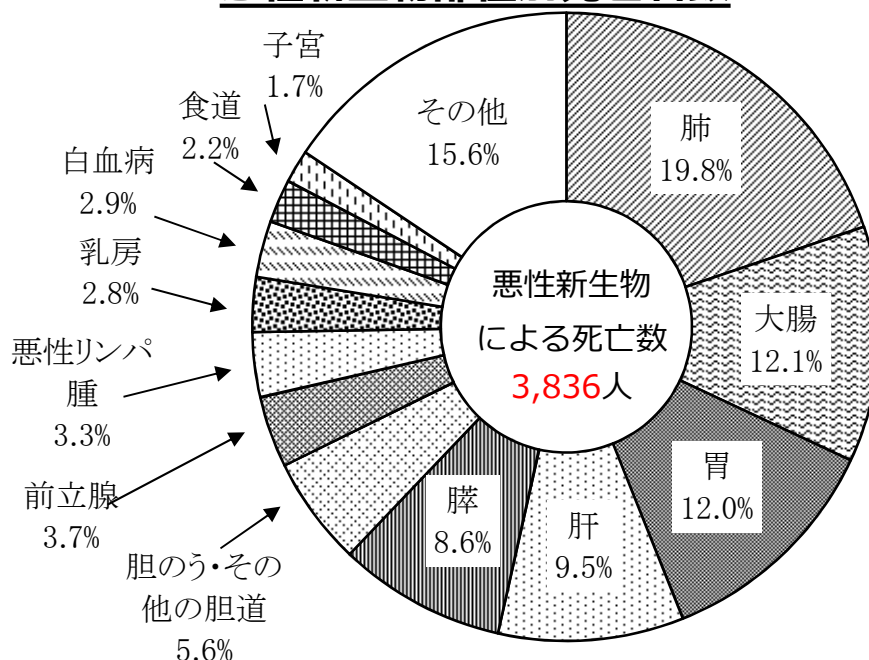
また、死因別死亡数を前年と比較すると、増加したのは悪性新生物（244人）、腎不全（21人）、心疾患（20人）、老衰（17人）及び慢性閉塞性肺疾患（12人）である。

主な死因別死亡数・死亡率(人口10万対)

死 因	平成 26 年				平成 25 年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全死因		14,065	1209.4	100.0		13,874	1185.8	191	23.6
悪性新生物	1	3,836	329.8	27.3	1	3,592	307.0	244	22.8
心疾患	2	2,056	176.8	14.6	2	2,036	174.0	20	2.8
肺炎	3	1,442	124.0	10.3	3	1,467	125.4	△ 25	△ 1.4
脳血管疾患	4	1,282	110.2	9.1	4	1,361	116.3	△ 79	△ 6.1
老衰	5	733	63.0	5.2	5	716	61.2	17	1.8
不慮の事故	6	484	41.6	3.4	6	519	44.4	△ 35	△ 2.8
腎不全	7	283	24.3	2.0	7	262	22.4	21	1.9
慢性閉塞性肺疾患	8	228	19.6	1.6	9	216	18.5	12	1.1
自殺	9	205	17.6	1.5	8	255	21.8	△ 50	△ 4.1
肝疾患	10	149	12.8	1.1	10	154	13.2	△ 5	△ 0.4

なお、悪性新生物の部位別の内訳は、肺（19.8%）大腸（12.1%）胃（12.0%）肝（9.5%）の順に多く、この4つで悪性新生物の53.4%を占める。

悪性新生物部位別死亡者数



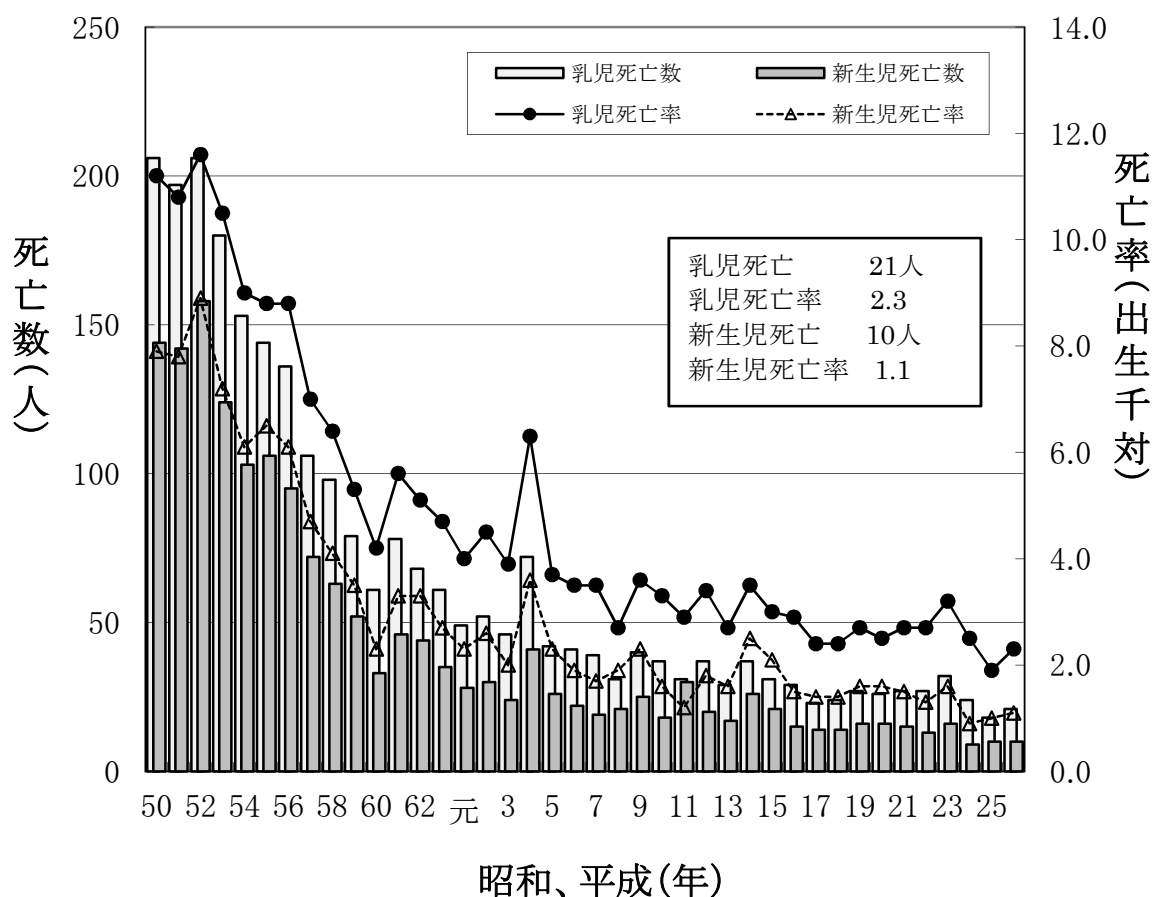
4 乳児死亡

生後1年未満の死亡である乳児死亡数は21人で、前年より3人増加した。乳児死亡率（出生千対）は2.3で、前年の1.9を上回った。年次推移をみると、昭和の終わりにかけて急激に低下し、その後は増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいに推移している。

5 新生児死亡

生後4週未満の死亡である新生児死亡数は10人で、前年と同じであった。新生児死亡率（出生千対）は1.1で、前年の1.0を上回った。年次推移は乳児死亡と同様の傾向となっている。

乳児(新生児)死亡数・率の年次推移



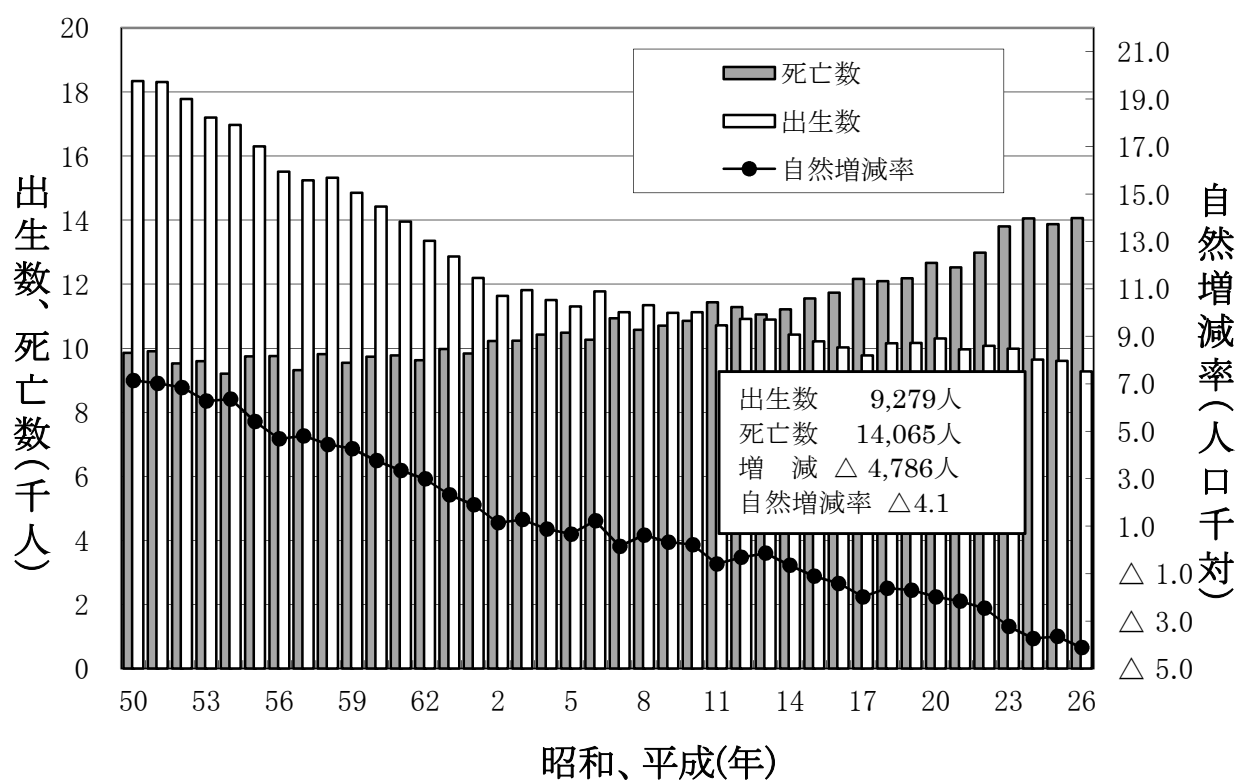
6 自然増減

自然増減（出生数－死亡数）は平成 11 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

増減数は△4,786 人で、前年の△4,269 より減少幅が拡大した。

自然増減率（人口千対）は△4.1 で、前年の△3.6 を下回った。

出生数、死亡数、自然増減率の年次推移

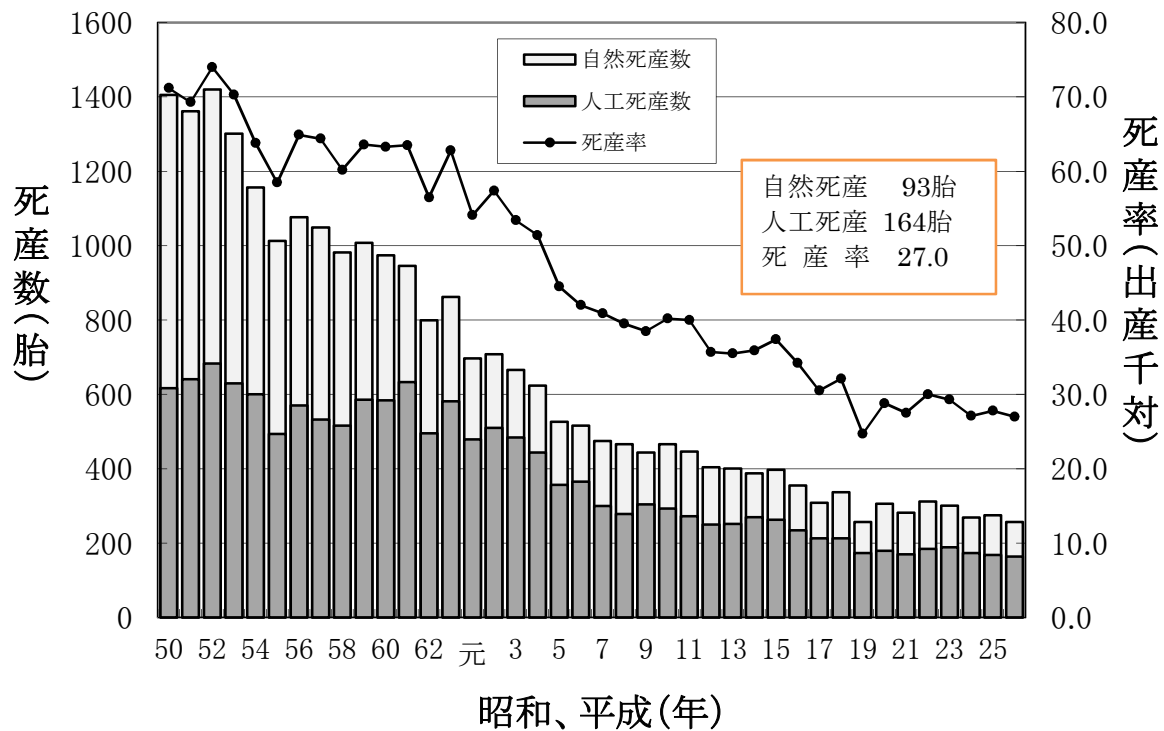


7 死産

死産数は257胎で、前年より17胎減少した。その内訳は自然死産93胎、人工死産が164胎となっている。

死産率（出産千対）は27.0で、前年の27.7を下回った。年次推移をみると、増減を繰り返しながら減少傾向にある。

死産数(率)の年次推移



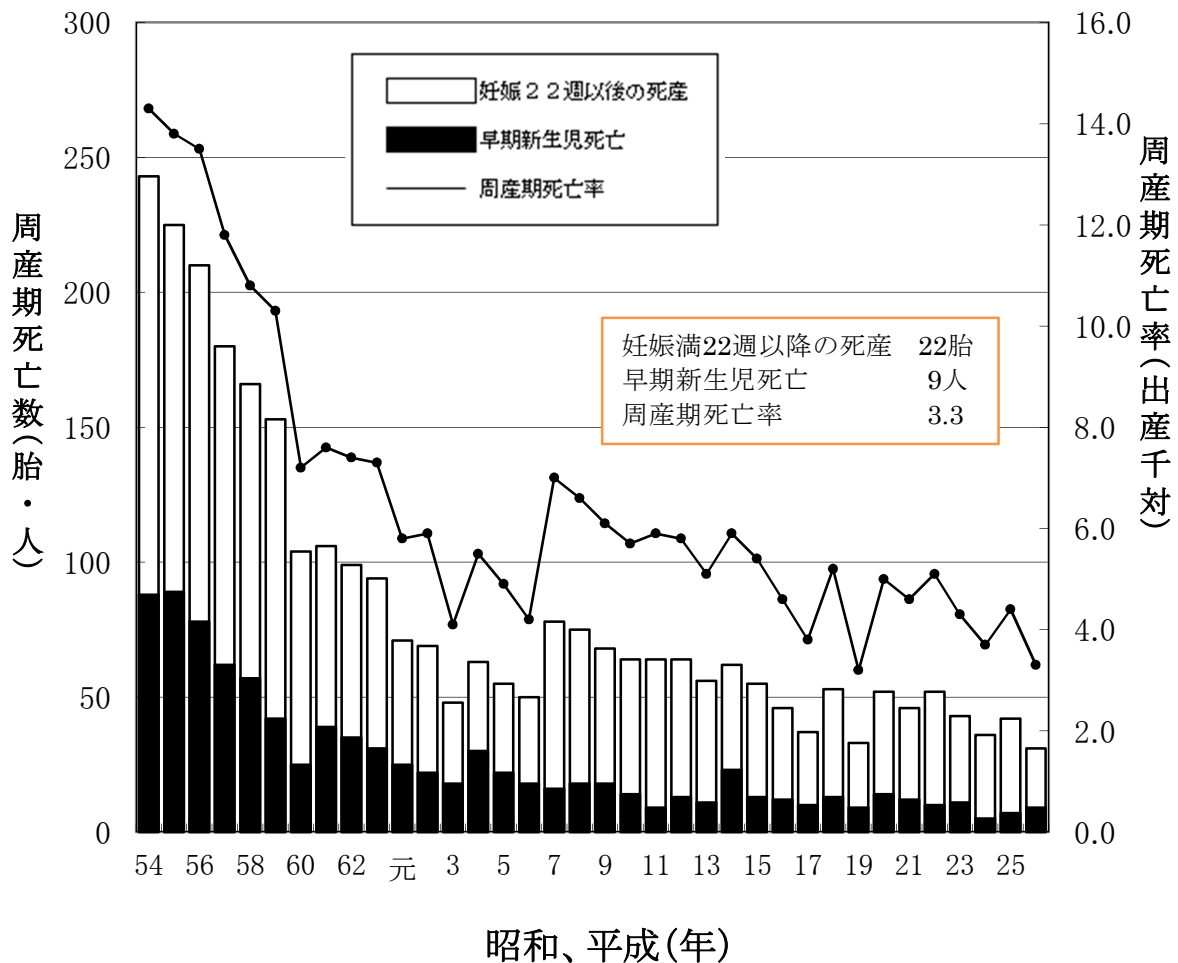
8 周産期死亡

妊娠満 22 週以後の死産に生後 1 週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は 31 (胎・人) で、前年の 42 (胎・人) より 11 人減少した。

その内訳は妊娠満 22 週以後の死産が 22 胎、生後 1 週未満の早期新生児死亡が 9 人となっている。

周産期死亡率 (出産千対) は 3.3 で、前年の 4.4 を下回った。年次推移をみると、昭和の終わりから平成の始めにかけて急激に低下し、以降増減を繰り返しながら横ばいに推移している。

周産期死亡数(率)の年次推移

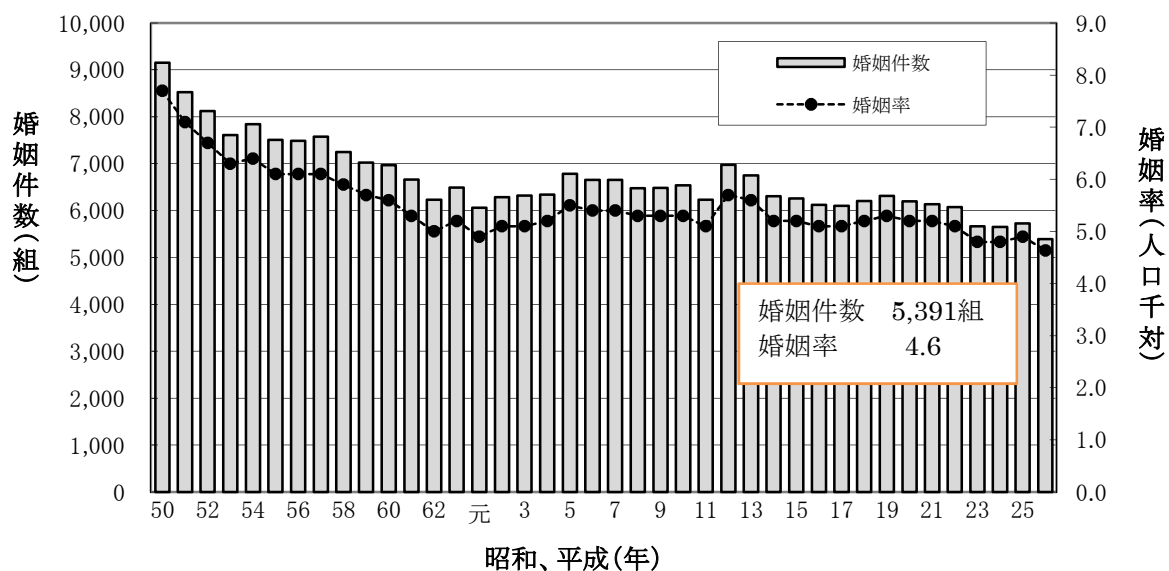


9 婚姻

婚姻件数は5,391組で、前年より333組減少した。

婚姻率（人口千対）は4.6で前年の4.9を下回った。その年次推移をみると平成に入って横ばいに推移していたが、近年は減少傾向にある。

婚姻件数、婚姻率の年次推移

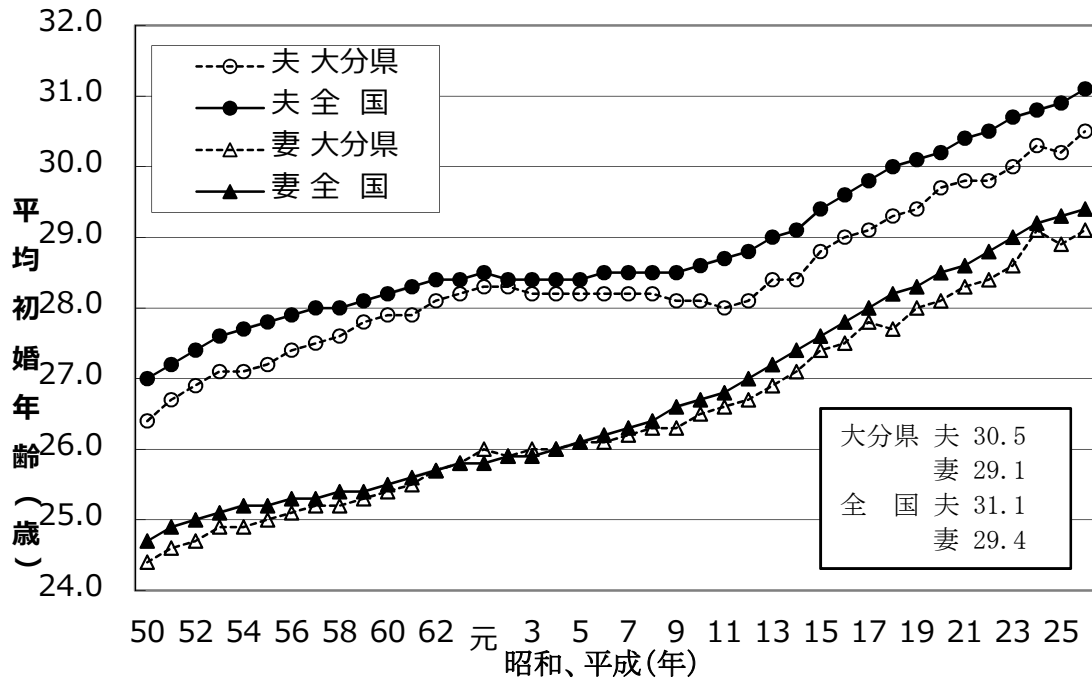


平均初婚年齢は上昇傾向にあり、夫30.5歳、妻29.1歳であった。

平均初婚年齢の年次推移

	夫		妻	
	大分県	全 国	大分県	全 国
平成16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2
19	29.4	30.1	28.0	28.3
20	29.7	30.2	28.1	28.5
21	29.8	30.4	28.3	28.6
22	29.8	30.5	28.4	28.8
23	30.0	30.7	28.6	29.0
24	30.3	30.8	29.1	29.2
25	30.2	30.9	28.9	29.3
26	30.5	31.1	29.1	29.4

平均初婚年齢の年次推移



10 離婚

離婚件数は2,004組で、前年より175組減少した。

離婚率（人口千対）は1.72で、前年の1.86より減少した。

離婚件数、離婚率の年次推移

